◆ＴＥＫＵ・ＴＥＫＵ ２０１９★かみいけ木賃ネット企画（活動記録）◆

企　画■密集市街地を歩き、木賃文化週間に参加して、街の未来を考える（かみいけ木賃文化ネットワークの活動）
日　時■２０１９年 3月２４日（土）１３：００～１８：００　ほか
コース■北池袋駅～池袋中学校～旧伊藤邸（皮工房プロジェクト）～山田荘＋くすのき荘（木賃文化週間２０１９）～木賃屋台・足りなさ荘～まちツアー～ＥＬＬ編集部トークショー～板橋駅
関連企画1■２０１８年１２月　9日（土）　メンバー募集公開説明会
関連企画2■２０１９年　4月１５日（月）　劇団はらぺこ満月/くすのき荘公演
関連企画3■２０１９年１０月２６日（土）　足りなさ荘@谷中芸工展２０１９
参加者■◎大竹　亮、井手幸人、重永真理子、堀川雅代（以上４名、関連企画含む、敬称略　◎コーディネイター）
企画主旨■かみいけ木賃文化ネットワークは、豊島区上池袋の密集市街地にある山田荘＋くすのき荘を拠点としたまちづくり活動体です。足りないものはまちを使うという開かれた木賃の生活文化で、アクションと場と人をつないでいきます。メンバーにはアーティスト、編集者、整体師、遊びの達人、などなど２０数名が集まっています。木賃文化週間では、木賃メンバーや仲間たちが、山田荘、くすのき荘、まちなかで、それぞれの個性を爆発させ、数多くの多彩な展示、パフォーマンス、イベントを行います。また、今回は伊藤邸という旧革工房の空き家活用プロジェクトとも連携しています。連日イベントが盛りだくさんですので、興味ある企画に合わせてぜひご参加ください。そして、上池袋の街を歩き、木賃の活用を実感し、街の未来を考えましょう。

木賃文化週間2020開催中のくすのき荘ロビー

マチノオト／皮工房伊藤邸プロジェクト

＜参加者の意見・評価＞

１◆上池袋くすのき荘＋山田荘について

評価Ａ●次に訪れたときにどのように活用されているかが楽しみな地域に開かれた施設。
評価Ａ●今日の建物（ハード）としては十分な機能性能ではないかもしれないが、使われ方（ソフト）がその空間にマッチしているので、木賃建物の持ち味が上手く活かされ、諸活動を誘発するようになっている。特に、くすのき荘は１Ｆエントランス、２Ｆリビング、そして窓の外の公園がスペースの狭さを救っている。
評価Ｂ●木賃がつくる空間がヒューマンスケールだということを再認識した。

２◆かみいけ木賃文化週間２０１９イベントについて

評価Ａ●地域の古い木賃建物の今後の活用を考える素晴らしいイベント。
評価Ａ●毎年こういうイベントを続け、しかも毎年内容が変わっているのが素晴らしい。メンバーがかかわった独創的で意表を突くような多彩な企画が沢山あった。どれも興味深かったが、当日参加できた中では、１Ｆの広告紙を自由にコラージュできるスペース「壁紙はってみるといいよ/上原祥吾」にはまってしまった。また、周辺の街をゆるく歩いてささやかな発見を教えてくれる「まちツアー/星茉里」（トキハソースの自動販売機など！）が特に面白かった。企画者兼ガイドの星さんは、松戸のまちづくり会社出身で現在は演劇作家に転身という特異なキャリアで、前職時代に培った「街を見る眼」を活かした街歩きはとても面白かったです。
評価Ｂ●あまり見ることができなかったのですが、木賃にあえて「文化週間」と銘打つ感覚が面白い。現代の画一的な空間を横目でみながら、木賃空間から新たな文化をつくるという確信犯的な感じがたくましい。足りなさ荘もＬＯＶＥ。

３◆同時開催：マチノオト/革工房伊藤邸プロジェクトについて

評価Ａ●住宅地の路地の一角にある小さな建物をこのように生かす試みは面白い。工房兼住宅だった内部はとてもヒューマンスケールで、懐かしく不思議に心安らぐ空間。いつまでも居たい感じで名残り惜しく後にした。
評価Ｂ●珍しい革加工ミシンが残る伊藤邸。ミシンを起動させたプロジェクトを期待しています！

４◆関連イベント：２０１９メンバー募集公開説明会について
●くすのき荘リビングでの少人数の説明会はアットホームな感じで、歓迎されていることが伝わってきた。寒い冬の夜だったので、暖かさがうれしかった。説明内容も分りやすく、その場で申込書を書いた方もいらして驚いた。

５◆関連イベント：劇団はらぺこ満月/くすのき荘公演について
●木賃文化週間で参加した「まちツアー」がとても面白かったので、その企画案内者・星茉里さんが主宰する劇団はらぺこ満月の「SHOKUPAN 1」がくすのき荘でおかわり公演される機会に、足を運んでみた。劇場のステージでなく一般の建物（くすのき荘ロビー）で、外の景色や人通りが見え（人々の反応も）、外の物音も聞こえるのがユニークだった。１Ｆでの舞台・客席設営だったが、２Ｆや階段も活用され、過去・現在・未来を同じ場所で表現する演出手法に、そしてそれを可能とする建物特性に、ひどく感心し感激をおぼえた。食パンを食べるというありふれた日常の繰り返しが、かけがえのない時間に変貌していく。なつかしさ、少しの淋しさ、そして希望をもらって幸せな時間だった。また、出演した吉見茉莉奈さんが主演する新作映画「センターライン」（下向拓生監督）のチケットもその場で購入し、池袋のシネマロサで関係者トークショーのある夜に視てしまったが、これもとても面白かった。文化の縁がどこまでもどんどんつながっていく感じでびっくり。

６◆関連イベント：木賃屋台･足りなさ荘@谷中芸工展について
●様々な機能が不足して自立できない屋台！という奇抜なコンセプトと、それを逆手に色々な場所に押しかけて勝手に接続してしまうという発想がユニーク。完璧を目指すな、助け合え、という警句であろうか？！　今回は芸工展の企画６０として、谷中･根津･千駄木のあちこちに出現するとのこと。行ってみると池之端の路地の奥で、無骨丸さんの尺八づくりWSに接続して違和感なく活躍していた。突然の訪問者にお茶までいただいて恐縮でした。

劇団はらぺこ満月おかわり公演 in くすのき荘

芸工展で尺八工房に接続する木賃屋台足りなさ荘

７■上池袋の町（防災上の課題がある密集市街地）は今後、どのようになってほしいですか
●防災上の課題の解決は、まとまった緑の広場と気持ちよく歩ける防災道路を確保すること。それにより、密集市街地の連坦を区切る。住宅地の中の道は、ネットワークは歴史的に作られたものを継承し、道幅は４メートル。容積率は２００％より上げない。小規模だが開放的で用途の限定されない空間（かみいけ木賃ネットワークの将来の活動の入れ物となるような、アートや文化の入れ物となるような）を持つ建物に緩やかに建て替わってほしい。
●エリアを歩くと、マンションとミニ戸建への変化が目立つ。建替えによる防災性向上を図りつつ、このエリアの特色である「ともに暮らし働く街」という性格とそのためのコミュニティを持続していってほしいもの。

８■かみいけ木賃文化ネットワークの活動は、街の今後にどのような効果をもたらすと思いますか
●密集市街地の防災問題を解決するためには、そこに住んでいる方々のコミュニケーションとネットワークが重要。かみいけ木賃文化週間は、こうした地域のつながりを再構築するための素晴らしい活動だと思います。
●いわゆる木賃エリア、密集市街地の改善策として、かなりの地区で市街地再開発事業が選択されている（すでに完了している地区も）。そうではない選択肢があることを世間に示していくことを期待しています。
●空き家となった古い建物を上手く転活用することで、新しい形の人のつながりと活動の場を創り出している。これによって、ともすれば単調化しがちな街の機能が、多様化・重層化することを期待したい。

９■今回の企画に対する感想など
●来年の、かみいけ木賃文化週間、どんな仕掛けか、楽しみにしています。（y/i）
コーディネイターより●毎年楽しみな「かみいけ木賃文化週間」ですが、今年は皮工房プロジェクトやまちツアーによって、街の中への展開がさらに感じられました。また、演劇公演や芸工展など関連企画にもどんどん参加してしまい、本当にネットワークが無限に広がっていくのだなあ、と実感できました。ありがとうございました。（r/o）